

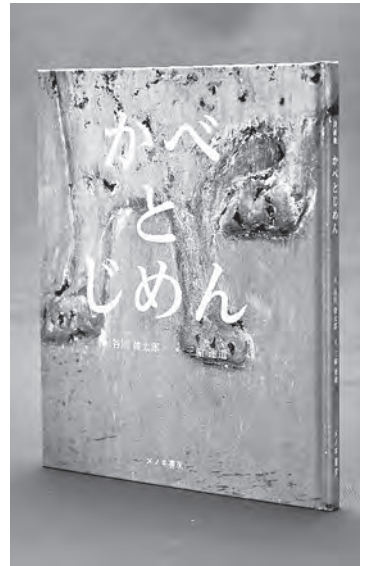
詩 谷川俊太郎、画 三輪途道

かべとじめん

書評

読むようになり、すぐにその柔らかな響きの詩が好きになった。

残念ながら親友は間もなく天国に旅立ち、僕はこの世に残された。谷川さんの詩を読むと、彼を



川さんの詩を懐かしい思い出とともに眺めながら、90歳を超えてなお現役の

なり、会社を半日休んで館林の県立美術館の展覧会を観に行った。

壁を乗り越える2人

思い出して悲しくなってしまうから、少し距離を置くようになった。

やがて僕の心の傷が癒え、再び谷川さんの詩に

詩人である谷川さんの生命力の強さを感じた。一方、下仁田町ご出身の三輪途道さんという

目が見えていた頃のシヤープで繊細で躍動感あふれる作品と、見えなくたってからの柔らかでユ一モラスな作品。とても

良い本は人の生き方を変える力を持つ。だから読書が好きだ。

(肥後秀明・日本銀行前橋支店長)

前橋支店長

(メノキ書房・187

0円)

谷川俊太郎さんの詩をよく読むようになったのは3年前の冬のことだ。学生時代の親友から末期のがんでであると打ち明けられ、病床の彼を励ますために同級生たちと作ったSNSのグループチャットで、親友は「谷川さんの詩に元気をもらっている」と語っていた。

コロナ禍で病院にお見舞いに行くことができない。遠くからでも彼の心に少しでも寄り添いたく

だ。「かべとじめん」というレリーフに寄せた谷

か、仕事ぶりを知らたく

つようになった。